

著者紹介
たべのぼる
田部 昇

1932年生まれ。1958年上智大学大学院経済学研究科修士課程修了、1958年財団法人アジア経済研究所入所、インド統計研究所 (Indian Statistical Institute) 客員リサーチ・フェロー、OECD (パリ) 開発センター客員フェロー、マドラス キリスト教大学 (Madras Christian College) 客員教授、国連 ESCAP (バンコク) 「非都市地域工業化」調査総括調整官、国連技術移転センター (バンガロール) 「技術と開発」研究シニア・アドバイザー、早稲田大学政治経済学部非常勤講師、アジア経済研究所理事、明治学院大学国際学部教授、同学部長を経て現在—明治学院大学名誉教授。専攻—開発経済学、地域研究 (インド)。

著書に『インドの経営者』、『インドの公企業』、“*Indian Entrepreneurs at the Cross-Roads: A Study of Business Leadership*”などの単著 (以上アジア経済研究所)、“*Industrialization in Non-Metropolitan Areas: Consolidated Report*” (UN ESCAP) などの共著のほか、『開発経済学のパラダイム』、『国際学研究』 (明治学院大学国際学部) など学術論文多数。

〔カバー写真〕

表 インド バードイ村のカーペット職人
裏 インド カーペット村 (バードイ) の女子小学校
朝礼風景

提供 Adrian Moser氏 (在スイス 写真家)

ISBN978-4-258-05112-0
C1230 ¥1400E

定価：本体1,400円＋税

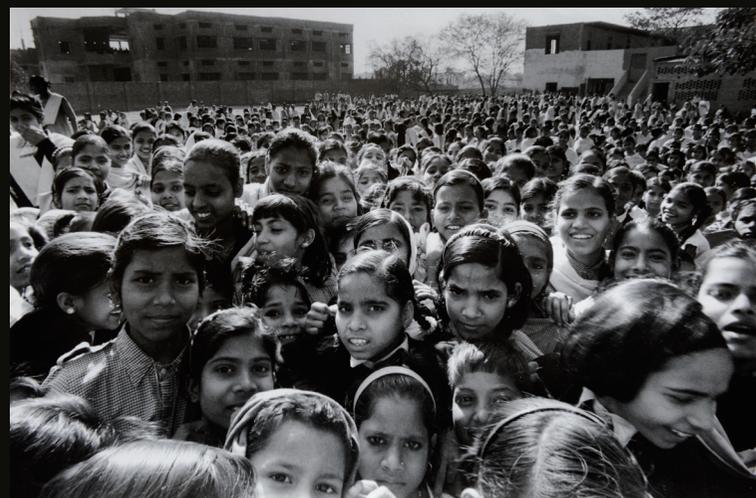


9784258051120



1921230014003

IDE-JETRO



アジアを見る眼

112

インド

児童労働の地をゆく

田部 昇 著

アジア経済研究所

田部 昇 著

インド

児童労働の地をゆく



いま、世界各国で目にするインドの伝統工芸品の数々、手織りカーペット、宝飾品、伝統的染織品。その生産現場には学校にも通わずに働く幼い子ども達の姿がある。筆者は一九九〇年代にインド国内でも伝統、文化や環境の異なる五つの産地で詳細な調査を行った。本書は、生産現場での聞き書きとアンケート調査に基づきインドにおける児童労働の実態を報告し、開発論の視点から「いま、なぜ児童労働か」を問う。

インド 児童労働の地をゆく

田部 昇 著

いま、世界各国で目にするインドの伝統工芸品の数々、手織りカーペット、宝飾品、伝統的染織品。その生産現場には学校にも通わずに働く幼い子ども達の姿がある。筆者は一九九〇年代にインド国内でも伝統、文化や環境の異なる五つの産地で詳細な調査を行った。本書は、生産現場での聞き書きとアンケート調査に基づきインドにおける児童労働の実態を報告し、開発論の視点から「いま、なぜ児童労働か」を問う。

アジアを見る眼

112

IDE-JETRO

ISBN978-4-258-05112-0 C1230

アジアを見る眼

112

インド 児童労働の地をゆく

田部 昇 著

アジア経済研究所

アジアを見る眼

112

いま、世界各国で目にするインドの伝統工芸品の数々、手織りカーペット、宝飾品、伝統的染織品。その生産現場には学校にも通わずに働く幼い

子ども達の姿がある。筆者は一九九〇年代にインド国内でも伝統、文化や環境の異なる五つの産地で詳細な調査を行った。本書は、生産現場での聞き書きとアンケート調査に基づきインドにおける児童労働の実態を報告し、開発論の視点から「いま、なぜ児童労働か」を問う。

IDE-JETRO

インド 児童労働の地をゆく

アジア経済研究所

田部 昇 著

インド 児童労働の地をゆく

目次

はしがき

ii

謝辞

vi

児童労働の地—分布地図

viii

序章 児童労働の地をゆく

3

第一章 いま、なぜ、児童労働か

7

一 教育機会の偏在／二 教育の二重構造／三 現地実態調査—児童労働の地をゆく／1 対象地域／2 調査の方法論／3 児童労働の統計／4 対象とする子ども達／5 四事例の概要—調査結果

第二章 シバカシ村のマッチ工女—なぜ、子どもの労働が必要とされるのか—

41

一 児童労働問題の原点／二 シバカシ村になが起きたか／三 「児童労働の地」シバカシ村へ／四 シバカシ村に見る「農村・農業の世界」／1 マッチの生産工程／2 なぜ、女児労働か／3 NGOの役割

第三章 タール砂漠の児童労働——技能継承・債務労働・不就学—— 69

一 貿易問題としての児童労働／二 砂漠の地シェイカワティへ／三 スターリング・シルバー宝飾品の産地／一 村の鍛冶屋と職人／二 宝飾品製作過程と技能継承——砂塵の舞う村々に見る／四 カーペット織りの村々——サモッド県とチュールー県／五 生産工程と子ども達の労働／六 カーペットの製作過程／七 児童労働不使用宣言「ラグ・マーク」／八 伝統染織の村サンガネール／一 製作技法の観察／二 生産物の特色／三 労働投入の型／むすび——砂漠の地シェイカワティからの贈り物

第四章 ガンジス平野のカーペット村——ミルザプル・バードイ村のドゥーリー織り—— 129

一 ペルシャ系カーペットと伝統的カーペット(ドゥーリー)／二 一九九四年のミルザプル・バードイ村／一 生産組織／二 技能形成／三 産地の外延的拡大／四 限界農民の教育機会

第五章 カルカッタのスラムと児童労働——ハウラー橋からスラムへの道—— 151

一 大都市の中の「児童労働の地」／二 カルカッタのスラム形成——内側からの観察と体験／三 一九六〇年のカルカッタ／四 一九九〇年代のカルカッタ／五 都市化の中の「農村化」／六 スラムの町ティルジャラへ／七 スラム内児童労働——その現実／八 スラム 三つの鎖——女兒労働の市場、教育機会の喪失、慢性的な飢餓的貧困

第六章 西ガート山脈を越える児童労働——ウディピ村から街の厨房へ—— 193

一 都市サービス産業の児童労働／一 浄と穢れと労働／二 慣習的労働／三 菜食料理・「浄と穢れ」・子どもの移動／二 巡礼地ウディピの「菜食料理」／一 カースト帰属意識／二 法規制の限界／三 浄と穢れと労働の分業／三 なぜ、ウディピの子どもか

第七章 不就学児童労働を考える——なぜ、子どもは学校に行けないのか—— 219

一 インドは解き放たれたか／二 児童労働市場は存在する／三 飢餓的貧困は解消されない／四 教育の貧困は構造化する／五 児童労働は社会慣習化する／六 子ども達の「反乱」

終章 インドの経験——もう一つの「野麦峠」—— 243

付属資料 坂井華奈子—— 251

付属資料一

一 インドの児童労働・不就学問題に関する文献／二 文献リスト

付属資料二

一 インド・児童労働に関する指標／二 インド・教育に関する指標

インド

児童労働の地をゆく

著者紹介

たべ のぼる
田部 昇

1932年生まれ。1958年上智大学大学院経済学研究科修士課程修了、1958年財団法人アジア経済研究所入所、インド統計研究所 (Indian Statistical Institute) 客員リサーチフェロー、OECD (パリ) 開発センター客員フェロー、マドラスキリスト教大学 (Madras Christian College) 客員教授、国連ESCAP (バンコク) 「非都市地域工業化」調査総括調整官、国連技術移転センター (バンガロール) 「技術と開発」研究シニア・アドバイザー、早稲田大学政治経済学部 非常勤講師、アジア経済研究所理事、明治学院大学国際学部教授、同学部長を経て現在一明治学院大学名誉教授。専攻一 開発経済学、地域研究 (インド)。

著書に『インドの経営者』、『インドの公企業』、『*Indian Entrepreneurs at the Cross-Roads: A Study of Business Leadership*』などの単著 (以上アジア経済研究所)、『*Industrialization in Non-Metropolitan Areas: Consolidated Report*』 (UN ESCAP) などの共著のほか、『開発経済学のパラダイム』、『国際学研究』 (明治学院大学国際学部) など学術論文多数。

インド 児童労働の地をゆく

アジアを見る眼112

2010年2月15日発行©

定価： 1,400円 + 税

著者 田部 昇

発行所 アジア経済研究所

独立行政法人日本貿易振興機構

千葉県美浜区若葉3-2-2 〒261-8545

研究支援部

電話 043(299)9735 (販売)

FAX 043(299)9736 (販売)

E-mail syuppan@ide.go.jp

<http://www.ide.go.jp>

制作 有限会社テラパブ

印刷 康印刷株式会社

落丁・乱丁はお取り替えいたします

無断転載を禁ず

ISBN 978-4-258-05112-0 C1230

地中海から太平洋まで、この広くアジアと呼ばれる地帯には幾十かの国がある。その大部分は第二次世界大戦以後、古い植民地体制から脱して新興の独立国となったものである。世界の人口の半ば以上のものがここにある。これらの新興国はそれぞれの立場に立って、建国創業の仕事に力をつくしている。

その業は果たして障害なく着々と進んでおるか。だれもがこれに対して頭をかしげるであろう。そしてだれもがアジアは「流動的である」という。

流動的とは何であるか。また何でないか。いくたの混みいった事態のなかを、一本の金の線が生々発展的に縫っているのも流動的である。経済は着々と成長し、政治は一つの体制のなかで徐々に整備されているような場合がそれである。

アジア諸国の大部分については、事態はこのように簡単ではない。もちろん、経済の場面には大きな発展・成長の芽生えはある。しかし、他面においてそれを抑制するものが力づよい。またおよそ発展や成長を考える場合、在来流行の理解によるパターンを以つてするのが果たして正しいか、との疑問もでてくる。さらに政治体制については、イデオロギーの対立、複合民族国家における特殊なナショナリズムに伴う民族や種族間の闘争があつて、政治的安定はなかなか期すべくもない。独立国家の幼年期に伴う政治的、行政的未熟もまた考えられるべき大きな原因である。

こういう次第で、アジアが流動的であるとは、一つの混沌を意味するものといえようか。そしてその上に立つていかなる経済・社会・政治の体制が整い得られるであろうか。——この意味で二〇世紀後半のアジアは世界における「問題」、いな最もおおきな「問題」である。

アジア経済研究所は、まさにこの「問題」の理解に向かつて、ひたすら前進をつづけている。われわれの期するところは、まさにそれぞれの国の現実に即した精確な知識を供しよう、そしてこの大きな「問題」について静かなサードピスをいたそうとするに尽きる。設立以来すでに七カ年あまり、専らそういう道を歩んできたし、今後もそれに変わりはない。このシリーズは、多くの研究や調査の報告書、現地調査を土台として、アジアについての解説書・教養書たることを目標とするものである。

一九六六年三月

アジア経済研究所 東畑 精 一

- 96 やさしい開発経済学
山形辰史 編
開発経済学および開発にかかわる経済学の主要なエッセンスを平易な文法
でわかりやすく解説した。一九九八年一月刊 一四〇〇円十税
- 97 アフリカの人口と開発
早瀬保子 著
人口急増、エイズ、一夫多妻婚、保健衛生、難民問題等、ジンバブエに長
期滞在していた人口学者がアフリカ人口問題の現状とその背景を、最新資
料で解説するアフリカ人口学入門書。一九九九年四月刊 一四〇〇円十税
- 98 市場発生のダイナミクス
丸川知雄 著
計画経済の殻を破って市場経済がダイナミックに誕生している中国。現地
での企業インタビューを通じて、産業の現場から市場経済が発生するとは
どういうことかを考察する。一九九九年四月刊 一四〇〇円十税
- 99 アジア通貨危機と金融危機から学ぶ
國宗浩三 著
アジア通貨危機のメカニズムを解説し、その原因についての諸説を検討す
る。IMFの対応の問題点や、現在アジア諸国で進みつつある企業や銀行の
再建についても考察する。二〇〇一年三月刊 一四〇〇円十税
- 100 イエメンものづくし
モノを通してみる文化と社会
佐藤 寛 著
日本とは気候も歴史も文化も言語も異なる「アラブの田舎」イエメン。そこ
で暮らしていると出会う奇妙なモノの数々、そんなモノの背景をのぞく
ことでイエメンの文化と社会を理解しようとする。地域研究者のフィールド
ノート。二〇〇一年三月刊 一四〇〇円十税
- 101 北京からの「熱点追跡」
現代中国政治の見方
佐々木智弘 著
共産党による一党支配はどのように維持されているのか北京大学、政治
改革、日中関係、中国共産党の四つの舞台から、答えを探る。
二〇〇一年二月刊 一四〇〇円十税
- 102 スラウエシだより
地方から見た激動のインドネシア
松井和久 著
スハルト政権崩壊前後の五年間をスラウエシ島で暮らした筆者が、激動の
インドネシアを地方からの視点で捉えた臨場感あふれる観察記録。
二〇〇二年三月刊 一四〇〇円十税
- 103 中国の石油と天然ガス
神原 達 著
三〇年間中国の石油産業を調査してきた著者が、改革と発展を続ける石油、
天然ガス産業の現状と将来を見通し、需要増大で大石油輸入国となる中国の
石油安定確保政策をも論じる。二〇〇二年二月刊 一四〇〇円十税

- | | | | | | | | |
|--|--|---|---|---|--|--|---|
| 111 | 110 | 109 | 108 | 107 | 106 | 105 | 104 |
| 貧困国への援助再考
ニカラグア草の根援助からの教訓 | 社会主義後のウズベキスタン
変わる国と揺れる人々の心 | ロシア資源産業の『内部』 | 石油大国ロシアの復活 | 貧困削減と世界銀行
9月11日米国多発テロ後の大変化 | テヘラン商売往来
イラン商人の世界 | アジアの人口
クローバル化の波の中で | ガーナ 混乱と希望の国 |
| 加賀美充洋 著 | ティムール・
ダダバエフ著 | 塩原俊彦 著 | 木村真澄 著 | 朽木昭文 著 | 岩崎葉子 著 | 早瀬保子 著 | 高根 務 著 |
| 日本のODAは役に立ち、我が国の国際的な立場を強化しているのか。少額でも成果の高い「草の根・人間の安全保障無償資金協力」をニカラグアでの豊富な具体例と写真で解説する。二〇〇九年十月刊 九八〇円十税 | ソ連邦と社会主義という制度が崩壊した後、人々は何のような理想や夢を抱き、悩みを抱えているのか。国家、社会、そして家族に対する考え方はどのように変化したのだろうか。二〇〇八年六月刊 九八〇円十税 | 世界的な関心を集めるロシアの石油・ガス産業を、政治との関係をはじめ企業集団ごとに詳細に分析した力作。二〇〇六年一月刊 九八〇円十税 | 石油生産の回復とともに力強さを取り戻しつつあるロシア経済。サウジアラビアと並ぶ世界最大の産油国であるロシアの石油について、その特質を分析し、今後の方向を展望する。二〇〇五年三月刊 一四〇〇円十税 | 二〇〇一年九月十一日米国同時多発テロが開発のあり方にも影響し、貧困削減が地球的な課題となった。本書は、世界銀行の貧困削減戦略を示し、筆者の成長戦略を提案する。二〇〇四年九月刊 一一〇〇円十税 | 十年にわたる調査で覗いたイラン商人の世界。客あしらいや義理人情など、商売の極意を彼ら自身の言葉で綴る。宗教や政治の本では決して読めない生身のイランが見えてくる。二〇〇四年七月刊 一四〇〇円十税 | 多産多死から少子高齢化、児童労働と都市化、エイズ・SARSの拡大と国際労働移動など、多様なアジアの人口問題を考察し、その将来を展望する。二〇〇四年三月刊 一四〇〇円十税 | カカオの産地として有名な、西アフリカの国、ガーナ。この国の豊かな文化と歴史を辿り、そして私たちと同時代を生きるガーナのくらしを、等身大の視点で描く。二〇〇三年十一月刊 一一〇〇円十税 |